

- 市民と市長との意見交換会の内容要旨
 令和元年8月26日 三谷コミュニティセンター
 テーマ1 地域共生社会の実現に向けて

No	御意見等	回答
1	<p>自分が住む地区の自治会の加入率が低い上、コミュニティ協議会の運営に関わる人も高齢化し、後継者がおらず、今後の運営を危惧している。</p> <p>高松市としての対策をお伺いしたい。</p>	<p>自治会は任意加入の団体で、会費も要することから強制はできないが、いざというとき必要であるという呼びかけをしながら、今後も自治会が維持できるよう市としても努力してまいりたい。</p> <p>しかしながら、加入率低下が続く中、自治会だけを主体にした運営ができなくなっており、それに代わる組織が、地域のすべての住民、団体が構成員である地域コミュニティ協議会であると考えている。</p> <p>自治会は引き続き重要であるという認識に変わりはないが、例えば婦人会の会長が地域コミュニティ協議会の会長でもよく、地域コミュニティ協議会の関係機関と一緒に活動できる仕組みづくりに努めてまいりたい。</p>
2	<p>民生委員、PTA役員等、地域における役を掛け持ちしている人が多く、その分母が非常に小さい。</p> <p>(分母を大きくするための) 人づくりに関する具体的な取組はあるか。</p>	<p>地域において複数の役職を担っていただいている方々には、本当にご苦労いただいている。</p> <p>これからの地域社会は、住んでいる人それぞれがお互いさまの精神でやっていかなければならず、まずは、(地域共生社会の) PR動画等を活用して、多くの方々に知ってもらうことが必要である。</p> <p>今後、市主催の会合や、地域の会合等様々な機会でも、地域共生社会の意義等を周知してまいりたい。</p>

No	御意見等	回答
3	<p>コミュニティ協議会の各種団体の構成員は、現実として、自治会に加入している人だけで構成されている。コミュニティ協議会ときくと活動範囲が広がったように錯覚するが、実際には自治会ベースでしかない。</p> <p>広報たかまつの配布についても同様であり、自治会加入率が低下する中、どうやって活動を維持・拡大するかが課題であり、市が自治会に加入する必要性があると感じることができるよう施策を行い、解決の道筋を示してほしい。</p>	<p>市の情報発信媒体の基幹ともいべき広報たかまつが、自治会加入者にしか配布できていないのは問題であり、全戸配布に切り替える予定である。</p> <p>このように、自治会加入・未加入に関係なく、全ての人を対象としなければならない施策については、これまでと違うやり方に変えていかなければならないと考える。</p> <p>一方、地域共生社会は、自治会レベルの人のつながりがなければ成り立たない。</p> <p>自治会レベルのコミュニティを形成することで、近所付き合いがはじまり、安全・安心感を得ることができるといったことを示すなど、今の人たちが必要性を感じることもできるような取組を行いながら、加入促進は推進していきたい。</p>
4	<p>高齢の方々には、（他人に）迷惑をかけてはいけないと思っている人が多く、お互いさまという理念を分かってもらえないと、その取組が表面的なものとなり、結果自分自身で問題を抱えてしまうことになると思う。</p>	<p>地域に住む高齢者の方々にも、地域共生社会の考えをしっかりと周知するとともに、地域共生社会の取組の一つである地域での情報収集・戸別訪問等（アウトリーチ）を進める際、御指摘があった点についても十分に留意してまいります。</p>

No	御意見等	回答
5	<p>高松型地域共生社会構築整備事業では地域福祉ネットワーク会議において要支援1、2の人を対象に進められている。</p> <p>しかし、要支援の認定を受けずとも困っている人が本当に多い。要支援の認定に縛られず、支援できる範囲を広めてほしい。</p> <p>また、この事業の利用者の実績等が不明であり、効果があがっているか実感がわからない。</p>	<p>財源的な問題があるので対象者を絞っているが、この事業はまだ始まったばかりであるので、その効果検証を重ねながら、対象者を広げることも含めて、検討してまいりたい。</p>
6	<p>学校の育成会と地域の人とで交流イベントを行っている。</p> <p>このような活動によって、三世代間のつながりができ、また保護者どうしに関わりを持つことでコミュニティの大切さに気づかされる。</p> <p>小学校単位で在校生を対象に、このような活動を行うことは、自治会加入の足掛かりになると同時に、コミュニティ活動の後継者育成にもつながるのではと思う。</p>	<p>在校生を対象にすることで、自治会や子ども会への加入の有無に関係なく交流イベントを行っていることは非常に大切なことである。</p> <p>地域コミュニティの在り方を考える上での参考とさせていただきたい。</p>

テーマ2 コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを目指して

No	御意見等	回答
1	<p>私が住む地域は、公共交通機関の空白地域となっている。 今は自転車を利用しているから不便性を感じないが、年を重ねると公共交通機関の必要性を感じる。 空白地域があることについて、市としてどう考えているか教えてほしい。</p>	<p>全ての地域を公共交通機関、特に鉄道で網羅することは難しいが、少し歩けばバス停がある、1時間に1本でもバスが走っているというような形で整備してまいりたい。</p>
2	<p>駅やバス停まで行くことができる人はいいが、そこまで行けない交通弱者について、例えば無料タクシーなどを検討してはどうか。</p>	<p>買い物支援のためのバスであれば福祉施策として考えていきたい。 また、地域でコミュニティバスを走らせることも考えられる。 地域で話し合って、地域コミュニティ主体でバスの運営を行うもので、若干ではあるが市としての支援策・仕組みがあるので、担当課に御相談いただきたい。</p>

No	御意見等	回答
3	<p>街中（の商店街）に魅力を感じない。 買い物等、郊外店舗で事足りている。 もっと魅力ある場所にしないと人が集まらないと思う。</p>	<p>近年、イベントなどを多数開催し、賑わいが戻っている商店街もあるが、必ずしも若い人の魅力につながっているとは限らないようで、郊外の大型店舗の方が、車で行けて便利だという意見もある。</p> <p>しかしながら、人口減少、高齢社会を迎える中、まちなかの活力を維持するまちづくりをすすめ、公共交通機関を利用してでも買い物することができるようにしていく必要がある。</p> <p>そのためにも街中に魅力を感じることができるような施策を検討していかなければならないが、市民の皆様にもこのような考え方に御理解いただき、公共交通機関を利用して街中にも出てきていただきたい。</p>

テーマ1、テーマ2以外で

No	御意見等	回答
1	<p>祭りなどのイベントは、子どもと高齢者のつながりでき、自治会加入につながると思う。また、全国的に自治会加入増加につながった成功例などがあれば、教えてほしい。</p>	<p>先進事例について調べてまいりたい。 いずれにしても、それらを踏まえ、それぞれの地域の実態に即した取組を行うことが重要であると感じている。</p>
2	<p>要介護者への支援も重要だが、要介護者にならないような施策、例えばスポーツ振興を進めていくことで、健康増進につながることも重要ではないか。</p>	<p>医療や介護を考える際に、高齢者全体の健康維持を図る施策を進めることも重要である。 日頃からの健康づくりは大切ということで、保健センターではウォーキングの推進を行っており、介護予防にもつなげたいと考えている。</p>